

ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

教員氏名	尾崎 有飛
主な担当科目	これからのピアノ表現Ⅰ,これからのピアノ表現Ⅱ,これからのピアノ表現Ⅲ,これからのピアノ表現Ⅳ,演奏会実習,実技個人レッスン[ピアノ②,ピアノ③,ピアノⅠ①,ピアノⅠ②,ピアノⅠ④,ピアノ実技Ⅰ①,ピアノ実技Ⅰ④,ピアノ実技演習②,音楽実技(ピアノ)Ⅱ]
シラバス	次ページをご参照ください
2022年の教育目標・授業に臨む姿勢	2022年度はピアノ音楽コース2年目にあたり、新たな授業も開設されたため、2年間の授業の流れや目標をより明確にするとともに、大学入学まで多様な音楽教育を受けてきている学生個々の理解度に合った授業展開になるよう心がけた。具体的には、和声や楽典等の知識を実技に結びつけること、そして3年次以降の学修や活動につながるプレゼンテーションのスキル向上(iPad等の端末操作含む)について、授業としてのまとまりを維持しつつ履修者それぞれになるべく寄り添ったものとなるよう努めた。
2022年の教育に関する自己評価	ピアノ音楽コースの学生数増加に伴い、授業の目的に一貫性を持たせることを意識しつつ、ある程度個々の目標に合わせた内容の柔軟性が出たことは収穫となった。また、多くの学生の積極的な姿勢もあり、大学の授業を通して何を学びたいかという学生のニーズも反映しつつ、自由なディスカッションを取り入れた授業も展開出来た。2年次の新設された授業に関しても、共同で担当している教員との連携を密に行うことで、なるべく幅広い内容を扱いながらも基礎をしっかりおさえることを心がけて、個々の特色に合わせた指導を行った。
2022年のFD活動に関する自己評価	新入生にiPadを配付する初めての年度となったこともあり、ソルフェージュFD研修会ではICTを用いた授業について昨年度に引き続いて取り上げられたが、自身が担当していない科目でのiPadの活用方法について具体的に学ぶことができた。また音楽教養コースについて、修士へ続けて6年間学修するという選択肢が出来たことは、今後同コースだけでなく学部で実技を学んでいる学生にも研究に対する意欲を促すものになることから、学生と進路等について話すときにも興味を持ってもらえるようにした。
授業改善のために取り入れた研修内容	ソルフェージュFD研修会で度々扱われる内容をもとに、ピアノ音楽コースの授業やレッスンにおいて、学生のソルフェージュの理解と演奏への応用力を補うようつとめた。ピアノの学修および演奏にはバランスのよいソルフェージュ能力が不可欠なため、授業では初見アンサンブルをさらに取り入れた。ICTを用いた授業については、FD研修会で取り上げられたiPadの使用方法的実践例などを参考に、紙面での運用より端末の方が扱いやすい部分的についてデータでの資料配付を行い、また課題のフィードバック等で取り入れた。

科目名－クラス名

これからのピアノ表現Ⅰ

B

曜日時限

金 1時限

担当教員

尾崎 有飛

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験					
演習	1～	前期	1	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
				0	50	0	0	50	100

教育到達目標と概要

次代の音楽界を担うピアニストに必要な知識・技術を修得する。演奏表現に直結するスキルの基礎として、初見演奏、テクニックとフィンガリングの関係などを学ぶとともに、鍵盤楽器について専門的な知識を身につける。

学修成果

ピアノ演奏において重要なスキルのひとつである初見演奏を中心に学ぶことで、表現のための技巧を身につける。また、古楽器等に触れながら、鍵盤楽器についての知識を身につけ、表現の幅を広げることができる。

授業展開と内容

第1回 オリエンテーション（年間計画、目的、勉強方法等の説明）

第2回 表現に直結するスキル①～表現のための運指の多様性

第3回 表現に直結するスキル②～初見演奏のための指使いと、初見演奏を音楽として演奏するためのヒント

第4回 表現に直結するスキル③～初見演奏のための楽譜の接し方

第5回 ディスカッション～スケールやアルペジオの活用方法について、意見交換を行う

第6回 表現に直結するスキル④～伴奏に必要な初見テクニック

第7回 表現に直結するスキル⑤～初見で旋律を美しく弾くテクニック・調性を意識するための移調奏

第8回 表現に直結するスキル⑥～説得力のある演奏と拍の関係

第9回 表現に直結するスキル⑦～初見演奏と拍・テンポの維持について・移調奏の基礎

第10回 表現に直結するスキル⑧～変拍子の作品を用いた初見トレーニング・移調奏を初見へ活かす

第11回 鍵盤楽器を知る①～ピアノの構造や調律について学ぶ（特別講師：渥美昌明氏）※授業調整日6月18日（土）に合同で実施

第12回 初見演奏の復習と、調性を意識し表現するための移調奏

第13回 鍵盤楽器を知る②～電子オルガンを知る（特別講師：諸井野ぞ美講師）

第14回 鍵盤楽器を知る③～歴史的鍵盤楽器を実際に弾き、演奏スタイルの変遷を学ぶ（特別講師：渥美昌明氏）※授業調整日7月9日（土）に合同で実施

第15回 初見演奏のまとめ（授業内小テスト）、「鍵盤楽器を知る」の項目についてのレポート提出（課題提出）

第16回

第17回

第18回

第19回

第20回

第21回

第22回

第23回

第24回

第25回

第26回

第27回

第28回

第29回

第30回

履修上の注意

11回目、14回目は授業調整日に授業を行うため注意すること。レポート提出については、書式等授業内で指示する。初見演奏は、授業内小テストで評価を行う。普段から学内外の演奏会、インターネット配信される演奏、テレビの音楽番組等に接し、様々な演奏や楽曲を知る機会を積極的に持つこと。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

"初見演奏の向上については、初見の練習だけでなく、毎日練習する楽曲への取り組み方が大きく関わってくる。自身が効果的な練習をしているか、普段から意識すること。

各週の内容は概ね関連して進行するので、授業で配付された譜面の復習を60分程度行うことで次回への予習とすること。
提出したレポートについては、コメントを入れて返却する。"

教科書・参考書

"初見演奏の参考及び自習教材として、W.カイルマン著 竹内ふみ子訳『ピアノ初見演奏法』（株）シンフォニア や、
その他ピアノの初見練習曲集など、何か1冊持って取り組むことが望ましいですが、初回授業で説明しますのでそれまで購入の必要はありません。"

科目名－クラス名

これからのピアノ表現Ⅰ

曜日時限

金 3時限

担当教員

尾崎 有飛

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		
演習	1～	前期	1	0	50	0	0	50	100

教育到達目標と概要

次代の音楽界を担うピアニストに必要な知識・技術を修得する。演奏表現に直結するスキルの基礎として、初見演奏、テクニックとフィンガリングの関係などを学ぶとともに、鍵盤楽器について専門的な知識を身につける。

学修成果

ピアノ演奏において重要なスキルのひとつである初見演奏を中心に学ぶことで、表現のための技巧を身につける。また、古楽器等に触れながら、鍵盤楽器についての知識を身につけ、表現の幅を広げることができる。

授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（年間計画、目的、勉強方法等の説明）
第2回	表現に直結するスキル①～表現のための運指の多様性
第3回	表現に直結するスキル②～初見演奏のための指使いと、初見演奏を音楽として演奏するためのヒント
第4回	表現に直結するスキル③～初見演奏のための楽譜の接し方
第5回	ディスカッション～スケールやアルペジオの活用方法について、意見交換を行う
第6回	表現に直結するスキル④～伴奏に必要な初見テクニック
第7回	表現に直結するスキル⑤～初見で旋律を美しく弾くテクニック・調性を意識するための移調奏
第8回	表現に直結するスキル⑥～説得力のある演奏と拍の関係
第9回	表現に直結するスキル⑦～初見演奏と拍・テンポの維持について・移調奏の基礎
第10回	表現に直結するスキル⑧～変拍子の作品を用いた初見トレーニング・移調奏を初見へ活かす
第11回	鍵盤楽器を知る①～ピアノの構造や調律について学ぶ（特別講師：渥美昌明氏）※授業調整日6月18日（土）に合同で実施
第12回	初見演奏の復習と、調性を意識し表現するための移調奏
第13回	鍵盤楽器を知る②～電子オルガンを知る（特別講師：諸井野ぞ美講師）
第14回	鍵盤楽器を知る③～歴史的鍵盤楽器を実際に弾き、演奏スタイルの変遷を学ぶ（特別講師：渥美昌明氏）※授業調整日7月9日（土）に合同で実施
第15回	初見演奏のまとめ（授業内小テスト）、「鍵盤楽器を知る」の項目についてのレポート提出（課題提出）
第16回	
第17回	
第18回	
第19回	
第20回	
第21回	
第22回	
第23回	
第24回	
第25回	
第26回	
第27回	
第28回	
第29回	
第30回	

履修上の注意

11回目、14回目は授業調整日に授業を行うため注意すること。レポート提出については、書式等授業内で指示する。初見演奏は、授業内小テストで評価を行う。普段から学内外の演奏会、インターネット配信される演奏、テレビの音楽番組等に接し、様々な演奏や楽曲を知る機会を積極的に持つこと。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

"初見演奏の向上については、初見の練習だけでなく、毎日練習する楽曲への取り組み方が大きく関わってくる。自身が効果的な練習をしているか、普段から意識すること。

各週の内容は概ね関連して進行するので、授業で配付された譜面の復習を60分程度行うことで次回への予習とすること。
提出したレポートについては、コメントを入れて返却する。"

教科書・参考書

"初見演奏の参考及び自習教材として、W.カイルマン著 竹内ふみ子訳『ピアノ初見演奏法』（株）シンフォニア や、
その他ピアノの初見練習曲集など、何か1冊持って取り組むことが望ましいですが、初回授業で説明しますのでそれまで購入の必要はありません。"

科目名－クラス名

これからのピアノ表現Ⅰ

ドラムスD

曜日時限

金 1時限

担当教員

尾崎 有飛

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験					
演習	1～	前期	1	評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト
				評価割合	0	50	0	0	50
									100

教育到達目標と概要

次代の音楽界を担うピアニストに必要な知識・技術を修得する。演奏表現に直結するスキルの基礎として、初見演奏、テクニックとフィンガリングの関係などを学ぶとともに、鍵盤楽器について専門的な知識を身につける。

学修成果

ピアノ演奏において重要なスキルのひとつである初見演奏を中心に学ぶことで、表現のための技巧を身につける。また、古楽器等に触れながら、鍵盤楽器についての知識を身につけ、表現の幅を広げることができる。

授業展開と内容

第1回 オリエンテーション（年間計画、目的、勉強方法等の説明）

第2回 表現に直結するスキル①～表現のための運指の多様性

第3回 表現に直結するスキル②～初見演奏のための指使いと、初見演奏を音楽として演奏するためのヒント

第4回 表現に直結するスキル③～初見演奏のための楽譜の接し方

第5回 ディスカッション～スケールやアルペジオの活用方法について、意見交換を行う

第6回 表現に直結するスキル④～伴奏に必要な初見テクニック

第7回 表現に直結するスキル⑤～初見で旋律を美しく弾くテクニック・調性を意識するための移調奏

第8回 表現に直結するスキル⑥～説得力のある演奏と拍の関係

第9回 表現に直結するスキル⑦～初見演奏と拍・テンポの維持について・移調奏の基礎

第10回 表現に直結するスキル⑧～変拍子の作品を用いた初見トレーニング・移調奏を初見へ活かす

第11回 鍵盤楽器を知る①～ピアノの構造や調律について学ぶ（特別講師：渥美昌明氏）※授業調整日6月18日（土）に合同で実施

第12回 初見演奏の復習と、調性を意識し表現するための移調奏

第13回 鍵盤楽器を知る②～電子オルガンを知る（特別講師：諸井野ぞ美講師）

第14回 鍵盤楽器を知る③～歴史的鍵盤楽器を実際に弾き、演奏スタイルの変遷を学ぶ（特別講師：渥美昌明氏）※授業調整日7月9日（土）に合同で実施

第15回 初見演奏のまとめ（授業内小テスト）、「鍵盤楽器を知る」の項目についてのレポート提出（課題提出）

第16回

第17回

第18回

第19回

第20回

第21回

第22回

第23回

第24回

第25回

第26回

第27回

第28回

第29回

第30回

履修上の注意

11回目、14回目は授業調整日に授業を行うため注意すること。レポート提出については、書式等授業内で指示する。初見演奏は、授業内小テストで評価を行う。普段から学内外の演奏会、インターネット配信される演奏、テレビの音楽番組等に接し、様々な演奏や楽曲を知る機会を積極的に持つこと。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

"初見演奏の向上については、初見の練習だけでなく、毎日練習する楽曲への取り組み方が大きく関わってくる。自身が効果的な練習をしているか、普段から意識すること。

各週の内容は概ね関連して進行するので、授業で配付された譜面の復習を60分程度行うことで次回への予習とすること。
提出したレポートについては、コメントを入れて返却する。"

教科書・参考書

"初見演奏の参考及び自習教材として、W.カイルマン著 竹内ふみ子訳『ピアノ初見演奏法』（株）シンフォニア や、
その他ピアノの初見練習曲集など、何か1冊持って取り組むことが望ましいですが、初回授業で説明しますのでそれまで購入の必要はありません。"

科目名－クラス名

これからのピアノ表現Ⅰ

曜日時限

金 3時限

担当教員

尾崎 有飛

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験					
演習	1～	前期	1	評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト
				評価割合	0	50	0	0	

教育到達目標と概要

次代の音楽界を担うピアニストに必要な知識・技術を修得する。演奏表現に直結するスキルの基礎として、初見演奏、テクニックとフィンガリングの関係などを学ぶとともに、鍵盤楽器について専門的な知識を身につける。

学修成果

ピアノ演奏において重要なスキルのひとつである初見演奏を中心に学ぶことで、表現のための技巧を身につける。また、古楽器等に触れながら、鍵盤楽器についての知識を身につけ、表現の幅を広げることができる。

授業展開と内容

第1回 オリエンテーション（年間計画、目的、勉強方法等の説明）

第2回 表現に直結するスキル①～表現のための運指の多様性

第3回 表現に直結するスキル②～初見演奏のための指使いと、初見演奏を音楽として演奏するためのヒント

第4回 表現に直結するスキル③～初見演奏のための楽譜の接し方

第5回 ディスカッション～スケールやアルペジオの活用方法について、意見交換を行う

第6回 表現に直結するスキル④～伴奏に必要な初見テクニック

第7回 表現に直結するスキル⑤～初見で旋律を美しく弾くテクニック・調性を意識するための移調奏

第8回 表現に直結するスキル⑥～説得力のある演奏と拍の関係

第9回 表現に直結するスキル⑦～初見演奏と拍・テンポの維持について・移調奏の基礎

第10回 表現に直結するスキル⑧～変拍子の作品を用いた初見トレーニング・移調奏を初見へ活かす

第11回 鍵盤楽器を知る①～ピアノの構造や調律について学ぶ（特別講師：渥美昌明氏）※授業調整日6月18日（土）に合同で実施

第12回 初見演奏の復習と、調性を意識し表現するための移調奏

第13回 鍵盤楽器を知る②～電子オルガンを知る（特別講師：諸井野ぞ美講師）

第14回 鍵盤楽器を知る③～歴史的鍵盤楽器を実際に弾き、演奏スタイルの変遷を学ぶ（特別講師：渥美昌明氏）※授業調整日7月9日（土）に合同で実施

第15回 初見演奏のまとめ（授業内小テスト）、「鍵盤楽器を知る」の項目についてのレポート提出（課題提出）

第16回

第17回

第18回

第19回

第20回

第21回

第22回

第23回

第24回

第25回

第26回

第27回

第28回

第29回

第30回

履修上の注意

11回目、14回目は授業調整日に授業を行うため注意すること。レポート提出については、書式等授業内で指示する。初見演奏は、授業内小テストで評価を行う。普段から学内外の演奏会、インターネット配信される演奏、テレビの音楽番組等に接し、様々な演奏や楽曲を知る機会を積極的に持つこと。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

"初見演奏の向上については、初見の練習だけでなく、毎日練習する楽曲への取り組み方が大きく関わってくる。自身が効果的な練習をしているか、普段から意識すること。

各週の内容は概ね関連して進行するので、授業で配付された譜面の復習を60分程度行うことで次回への予習とすること。
提出したレポートについては、コメントを入れて返却する。"

教科書・参考書

"初見演奏の参考及び自習教材として、W.カイルマン著 竹内ふみ子訳『ピアノ初見演奏法』（株）シンフォニア や、
その他ピアノの初見練習曲集など、何か1冊持って取り組むことが望ましいですが、初回授業で説明しますのでそれまで購入の必要はありません。"

科目名－クラス名

これからのピアノ表現Ⅱ

曜日時限

金 1時限

担当教員

尾崎 有飛

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験					
演習	1～	後期	1	評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト
				評価割合	0	20	0	50	30
									100

教育到達目標と概要

次代の音楽界を担うピアニストに必要な知識・技術を修得する。演奏表現に直結するスキルとして、移調奏を応用しながら初見演奏を学ぶ。また、クラシックスタイルの楽曲のアナリゼを行い、楽曲解説としてまとめてプレゼンテーションを行う。

学修成果

これからのピアノ表現Ⅰの内容から発展した音楽力を身につける。移調奏および初見演奏を行うことで、表現に直結するテクニックを身につける。また古典派の楽曲について、アナリゼとディスカッションを通じて自らの考えを深め、プレゼンテーションや文章でも音楽作品を伝えることができるようになる。

授業展開と内容

第1回	表現に直結するスキル①～移調奏を演奏表現へ活用する
第2回	表現に直結するスキル②～伴奏の移調奏から和声的なフレーズの表現に結びつける
第3回	表現に直結するスキル③～初見演奏につながる旋律の移調奏
第4回	表現に直結するスキル④～初見でキーボードアンサンブルの楽しみを探る
第5回	表現に直結するスキル⑤～移調奏を含む初見演奏のまとめ（授業内小テスト）
第6回	表現のためのアナリゼ①～古典派の小品の聴きどころを見つける、聴衆の聴き方を探る（ディスカッション）
第7回	表現のためのアナリゼ②～譜読みの効率化と説得力ある演奏につながるアナリゼ
第8回	表現のためのアナリゼ③～表現のためのアイデアを得るアナリゼ活用法
第9回	ディスカッション～古典派の楽曲の様々な演奏を聴き、意見交換を行う。また、プレゼンテーションにむけての流れを考える
第10回	作品を言葉で伝える①～小品の構成を考え、楽譜の面白さを見つける
第11回	作品を言葉で伝える②～作品の中心となる要素を見つけ、意見交換を行う
第12回	作品を言葉で伝える③～意見交換を行いながら、作品の構成をわかりやすくまとめてゆく
第13回	作品を言葉で伝える④～プレゼンテーションと楽曲解説文の執筆にむけて、文章にまとめる
第14回	プレゼンテーション～楽曲解説の発表、および課題提出
第15回	課題に対するフィードバックと、1年のまとめとしてのディスカッションを行う
第16回	
第17回	
第18回	
第19回	
第20回	
第21回	
第22回	
第23回	
第24回	
第25回	
第26回	
第27回	
第28回	
第29回	
第30回	

履修上の注意

初見・移調奏については授業内小テストを行う。また、アナリゼは曲目解説文の形式または通常のレポートの書式でA4サイズ1ページにまとめ、後期14回目に提出とする。普段から学内外の演奏会、インターネット配信される演奏、テレビの音楽番組等に接し、様々な楽曲に触れる機会を積極的にもつこと。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

初見演奏やアナリーゼ、演奏表現はすべて結びついているもので、毎日練習する楽曲への取り組み方が大きく関わってくる。自身が効果的な練習をしているか、普段から意識すること。

各週の内容は概ね関連して進行するので、授業で配付された譜面の復習を60分程度行うことで次回への予習とすること。
提出した課題については、コメントを入れて返却する。また、成果発表についても授業内でフィードバックを行う。

教科書・参考書

楽譜等について、必要に応じて持参の指示、または資料を配付します。

科目名－クラス名

これからのピアノ表現Ⅱ

曜日時限

金 3時限

担当教員

尾崎 有飛

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験					
演習	1～	後期	1	評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト
				評価割合	0	20	0	50	30
									100

教育到達目標と概要

次代の音楽界を担うピアニストに必要な知識・技術を修得する。演奏表現に直結するスキルとして、移調奏を応用しながら初見演奏を学ぶ。また、クラシックスタイルの楽曲のアナリゼを行い、楽曲解説としてまとめてプレゼンテーションを行う。

学修成果

これからのピアノ表現Ⅰの内容から発展した音楽力を身につける。移調奏および初見演奏を行うことで、表現に直結するテクニックを身につける。また古典派の楽曲について、アナリゼとディスカッションを通じて自らの考えを深め、プレゼンテーションや文章でも音楽作品を伝えることができるようになる。

授業展開と内容

第1回	表現に直結するスキル①～移調奏を演奏表現へ活用する
第2回	表現に直結するスキル②～伴奏の移調奏から和声的なフレーズの表現に結びつける
第3回	表現に直結するスキル③～初見演奏につながる旋律の移調奏
第4回	表現に直結するスキル④～初見でキーボードアンサンブルの楽しみを探る
第5回	表現に直結するスキル⑤～移調奏を含む初見演奏のまとめ（授業内小テスト）
第6回	表現のためのアナリゼ①～古典派の小品の聴きどころを見つける、聴衆の聴き方を探る（ディスカッション）
第7回	表現のためのアナリゼ②～譜読みの効率化と説得力ある演奏につながるアナリゼ
第8回	表現のためのアナリゼ③～表現のためのアイデアを得るアナリゼ活用法
第9回	ディスカッション～古典派の楽曲の様々な演奏を聴き、意見交換を行う。また、プレゼンテーションにむけての流れを考える
第10回	作品を言葉で伝える①～小品の構成を考え、楽譜の面白さを見つける
第11回	作品を言葉で伝える②～作品の中心となる要素を見つけ、意見交換を行う
第12回	作品を言葉で伝える③～意見交換を行いながら、作品の構成をわかりやすくまとめてゆく
第13回	作品を言葉で伝える④～プレゼンテーションと楽曲解説文の執筆にむけて、文章にまとめる
第14回	プレゼンテーション～楽曲解説の発表、および課題提出
第15回	課題に対するフィードバックと、1年のまとめとしてのディスカッションを行う
第16回	
第17回	
第18回	
第19回	
第20回	
第21回	
第22回	
第23回	
第24回	
第25回	
第26回	
第27回	
第28回	
第29回	
第30回	

履修上の注意

初見・移調奏については授業内小テストを行う。また、アナリゼは曲目解説文の形式または通常のレポートの書式でA4サイズ1ページにまとめ、後期14回目に提出とする。普段から学内外の演奏会、インターネット配信される演奏、テレビの音楽番組等に接し、様々な楽曲に触れる機会を積極的にもつこと。

■ **授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法**

初見演奏やアナリーゼ、演奏表現はすべて結びついているもので、毎日練習する楽曲への取り組み方が大きく関わってくる。自身が効果的な練習をしているか、普段から意識すること。

各週の内容は概ね関連して進行するので、授業で配付された譜面の復習を60分程度行うことで次回への予習とすること。
提出した課題については、コメントを入れて返却する。また、成果発表についても授業内でフィードバックを行う。

■ **教科書・参考書**

楽譜等について、必要に応じて持参の指示、または資料を配付します。

科目名－クラス名

これからのピアノ表現Ⅱ

ドラムスB

曜日時限

金 1時限

担当教員

尾崎 有飛

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験				授業内小テスト	
演習	1～	後期	1	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		
				0	20	0	50	30	100

教育到達目標と概要

次代の音楽界を担うピアニストに必要な知識・技術を修得する。演奏表現に直結するスキルとして、移調奏を応用しながら初見演奏を学ぶ。また、クラシックスタイルの楽曲のアナリゼを行い、楽曲解説としてまとめてプレゼンテーションを行う。

学修成果

これからのピアノ表現Ⅰの内容から発展した音楽力を身につける。移調奏および初見演奏を行うことで、表現に直結するテクニックを身につける。また古典派の楽曲について、アナリゼとディスカッションを通じて自らの考えを深め、プレゼンテーションや文章でも音楽作品を伝えることができるようになる。

授業展開と内容

- 第1回 表現に直結するスキル①～移調奏を演奏表現へ活用する
- 第2回 表現に直結するスキル②～伴奏の移調奏から和声的なフレーズの表現に結びつける
- 第3回 表現に直結するスキル③～初見演奏につながる旋律の移調奏
- 第4回 表現に直結するスキル④～初見でキーボードアンサンブルの楽しみを探る
- 第5回 表現に直結するスキル⑤～移調奏を含む初見演奏のまとめ（授業内小テスト）
- 第6回 表現のためのアナリゼ①～古典派の小品の聴きどころを見つける、聴衆の聴き方を探る（ディスカッション）
- 第7回 表現のためのアナリゼ②～譜読みの効率化と説得力ある演奏につながるアナリゼ
- 第8回 表現のためのアナリゼ③～表現のためのアイデアを得るアナリゼ活用法
- 第9回 ディスカッション～古典派の楽曲の様々な演奏を聴き、意見交換を行う。また、プレゼンテーションにむけての流れを考える
- 第10回 作品を言葉で伝える①～小品の構成を考え、楽譜の面白さを見つける
- 第11回 作品を言葉で伝える②～作品の中心となる要素を見つけ、意見交換を行う
- 第12回 作品を言葉で伝える③～意見交換を行いながら、作品の構成をわかりやすくまとめてゆく
- 第13回 作品を言葉で伝える④～プレゼンテーションと楽曲解説文の執筆にむけて、文章にまとめる
- 第14回 プレゼンテーション～楽曲解説の発表、および課題提出
- 第15回 課題に対するフィードバックと、1年のまとめとしてのディスカッションを行う
- 第16回
- 第17回
- 第18回
- 第19回
- 第20回
- 第21回
- 第22回
- 第23回
- 第24回
- 第25回
- 第26回
- 第27回
- 第28回
- 第29回
- 第30回

履修上の注意

初見・移調奏については授業内小テストを行う。また、アナリゼは曲目解説文の形式または通常のレポートの書式でA4サイズ1ページにまとめ、後期14回目に提出とする。普段から学内外の演奏会、インターネット配信される演奏、テレビの音楽番組等に接し、様々な楽曲に触れる機会を積極的にもつこと。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

初見演奏やアナリーゼ、演奏表現はすべて結びついているもので、毎日練習する楽曲への取り組み方が大きく関わってくる。自身が効果的な練習をしているか、普段から意識すること。

各週の内容は概ね関連して進行するので、授業で配付された譜面の復習を60分程度行うことで次回への予習とすること。

提出した課題については、コメントを入れて返却する。また、成果発表についても授業内でフィードバックを行う。

教科書・参考書

楽譜等について、必要に応じて持参の指示、または資料を配付します。

科目名－クラス名

これからのピアノ表現Ⅱ

曜日時限

金 3時限

担当教員

尾崎 有飛

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験					
演習	1～	後期	1	評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト
				評価割合	0	20	0	50	30
									100

教育到達目標と概要

次代の音楽界を担うピアニストに必要な知識・技術を修得する。演奏表現に直結するスキルとして、移調奏を応用しながら初見演奏を学ぶ。また、クラシックスタイルの楽曲のアナリゼを行い、楽曲解説としてまとめてプレゼンテーションを行う。

学修成果

これからのピアノ表現Ⅰの内容から発展した音楽力を身につける。移調奏および初見演奏を行うことで、表現に直結するテクニックを身につける。また古典派の楽曲について、アナリゼとディスカッションを通じて自らの考えを深め、プレゼンテーションや文章でも音楽作品を伝えることができるようになる。

授業展開と内容

- 第1回 表現に直結するスキル①～移調奏を演奏表現へ活用する
- 第2回 表現に直結するスキル②～伴奏の移調奏から和声的なフレーズの表現に結びつける
- 第3回 表現に直結するスキル③～初見演奏につながる旋律の移調奏
- 第4回 表現に直結するスキル④～初見でキーボードアンサンブルの楽しみを探る
- 第5回 表現に直結するスキル⑤～移調奏を含む初見演奏のまとめ（授業内小テスト）
- 第6回 表現のためのアナリゼ①～古典派の小品の聴きどころを見つける、聴衆の聴き方を探る（ディスカッション）
- 第7回 表現のためのアナリゼ②～譜読みの効率化と説得力ある演奏につながるアナリゼ
- 第8回 表現のためのアナリゼ③～表現のためのアイデアを得るアナリゼ活用法
- 第9回 ディスカッション～古典派の楽曲の様々な演奏を聴き、意見交換を行う。また、プレゼンテーションにむけての流れを考える
- 第10回 作品を言葉で伝える①～小品の構成を考え、楽譜の面白さを見つける
- 第11回 作品を言葉で伝える②～作品の中心となる要素を見つけ、意見交換を行う
- 第12回 作品を言葉で伝える③～意見交換を行いながら、作品の構成をわかりやすくまとめてゆく
- 第13回 作品を言葉で伝える④～プレゼンテーションと楽曲解説文の執筆にむけて、文章にまとめる
- 第14回 プレゼンテーション～楽曲解説の発表、および課題提出
- 第15回 課題に対するフィードバックと、1年のまとめとしてのディスカッションを行う
- 第16回
- 第17回
- 第18回
- 第19回
- 第20回
- 第21回
- 第22回
- 第23回
- 第24回
- 第25回
- 第26回
- 第27回
- 第28回
- 第29回
- 第30回

履修上の注意

初見・移調奏については授業内小テストを行う。また、アナリゼは曲目解説文の形式または通常のレポートの書式でA4サイズ1ページにまとめ、後期14回目に提出とする。普段から学内外の演奏会、インターネット配信される演奏、テレビの音楽番組等に接し、様々な楽曲に触れる機会を積極的にもつこと。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

初見演奏やアナリーゼ、演奏表現はすべて結びついているもので、毎日練習する楽曲への取り組み方が大きく関わってくる。自身が効果的な練習をしているか、普段から意識すること。

各週の内容は概ね関連して進行するので、授業で配付された譜面の復習を60分程度行うことで次回への予習とすること。
提出した課題については、コメントを入れて返却する。また、成果発表についても授業内でフィードバックを行う。

教科書・参考書

楽譜等について、必要に応じて持参の指示、または資料を配付します。

科目名－クラス名

これからのピアノ表現Ⅲ

曜日時限

木 3時限

担当教員

尾崎 有飛

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験					
演習	2～	前期	1	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
				0	50	0	0	50	100

教育到達目標と概要

次世代を担うピアニストに必要な知識・技術を修得する。演奏表現に直結するスキルを更に磨くため、初見演奏、移調奏に加え、即興演奏の基礎を学ぶ。また、ディスカッションの機会を頻繁に設定し、楽曲や作曲家、演奏家についてのテーマにおいて各自準備、考察した上で意見交換を行う。

学修成果

前年度I、IIで学修した初見演奏、移調奏などのテクニックを土台に、即興演奏の基礎を身につける。また、ディスカッションを通じて、鍵盤楽器について得た知識や考えを言葉にして伝えるスキルを高めるのと同時に、他者との意見交換により客観的かつ多面的な視野をもってディスカッションに臨むことが出来るようになる。

授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（年間計画、目的、勉強方法等の説明）（大森）
第2回	即興演奏の基礎①～主要三和音をベースに / 音楽について語る①～「世界のピアニスト」課題の提示、リサーチの準備（大森）
第3回	即興演奏の基礎①～主要三和音をベースに / 音楽について語る①～「世界のピアニスト」課題の提示、リサーチの準備（大森）
第4回	即興演奏の基礎③～既存の和声進行を使って / 音楽について語る③～「世界のピアニスト」他者の意見を取り入れてさらにディスカッションをすすめ、まとめる（大森）
第5回	即興演奏の基礎④～伴奏形とスタイル / 音楽について語る④～「現代ピアノ曲」課題の提示、リサーチの準備（大森）
第6回	即興演奏の基礎⑤～移調、転調 / 音楽について語る⑤～「現代ピアノ曲」ディスカッション（大森）
第7回	即興演奏の基礎⑥～ブルース、ジャズ / 音楽について語る⑥～「現代ピアノ曲」他者の意見を取り入れてさらにディスカッションをすすめ、まとめる（大森）
第8回	即興演奏の基礎⑦～フリースタイル（大森）
第9回	初見演奏・移調奏①（伴奏の初見・移調のトレーニング）（尾崎）
第10回	初見演奏・移調奏② / 音楽について語る⑦～「音楽家と読書」提示（尾崎）
第11回	初見演奏・移調奏③ / 音楽について語る⑧～「音楽家と読書」ディスカッション（尾崎）
第12回	初見演奏・移調奏④ / 音楽について語る⑨～「音楽家と読書」他者の意見を取り入れてさらにディスカッションをすすめ、まとめる（尾崎）
第13回	即興演奏のまとめ / ディスカッション・レポート① 準備（大森、尾崎）
第14回	初見演奏・移調奏のまとめ / ディスカッション・レポート② 構成（大森、尾崎）
第15回	即興演奏・初見演奏・移調奏の授業内小テスト。今まで行われたディスカッションでカバーしたテーマのうち一つ選択し、内容をまとめたレポートを提出。（大森、尾崎）
第16回	
第17回	
第18回	
第19回	
第20回	
第21回	
第22回	
第23回	
第24回	
第25回	
第26回	
第27回	
第28回	
第29回	
第30回	

履修上の注意

即興演奏・初見演奏・移調奏については、学期末に授業内小テストを行う。各ディスカッション後、配付するディスカッションノートに内容を記入し、次の授業時に

提出。ディスカッションレポートは、A4サイズ1ページ程度、15回目に提出。普段から学内外の演奏会、インターネット配信される演奏、テレビの音楽番組等に接し、様々な演奏や楽曲を知る機会を積極的に持つこと。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

この授業で学修する内容は演奏表現に直結するもので、毎日練習する楽曲への取り組み方に大きく関わってくる。自身が効果的な演奏をしているか、普段から意識すること。授業内容を深く修得できるよう、十分な予習（主に課題に対して30分）復習（授業1回の内容につき60分）をすること。提出したレポートについては、コメントを入れて返却する。

教科書・参考書

必要に応じて持参指示、または資料を配付する。

科目名－クラス名

これからのピアノ表現Ⅲ

研究生（留学生のみ）

曜日時限

木 3時限

担当教員

尾崎 有飛

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験				授業内小テスト	
演習	2～	前期	1	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	50	100
				0	50	0	0		

教育到達目標と概要

次世代を担うピアニストに必要な知識・技術を修得する。演奏表現に直結するスキルを更に磨くため、初見演奏、移調奏に加え、即興演奏の基礎を学ぶ。また、ディスカッションの機会を頻繁に設定し、楽曲や作曲家、演奏家についてのテーマにおいて各自準備、考察した上で意見交換を行う。

学修成果

前年度I、IIで学修した初見演奏、移調奏などのテクニックを土台に、即興演奏の基礎を身につける。また、ディスカッションを通じて、鍵盤楽器について得た知識や考えを言葉にして伝えるスキルを高めるのと同時に、他者との意見交換により客観的かつ多面的な視野をもってディスカッションに臨むことが出来るようになる。

授業展開と内容

- 第1回 オリエンテーション（年間計画、目的、勉強方法等の説明）（大森）
- 第2回 即興演奏の基礎①～主要三和音をベースに / 音楽について語る①～「世界のピアニスト」課題の提示、リサーチの準備（大森）
- 第3回 即興演奏の基礎①～主要三和音をベースに / 音楽について語る①～「世界のピアニスト」課題の提示、リサーチの準備（大森）
- 第4回 即興演奏の基礎③～既存の和声進行を使って / 音楽について語る③～「世界のピアニスト」他者の意見を取り入れてさらにディスカッションをすすめ、まとめる（大森）
- 第5回 即興演奏の基礎④～伴奏形とスタイル / 音楽について語る④～「現代ピアノ曲」課題の提示、リサーチの準備（大森）
- 第6回 即興演奏の基礎⑤～移調、転調 / 音楽について語る⑤～「現代ピアノ曲」ディスカッション（大森）
- 第7回 即興演奏の基礎⑥～ブルース、ジャズ / 音楽について語る⑥～「現代ピアノ曲」他者の意見を取り入れてさらにディスカッションをすすめ、まとめる（大森）
- 第8回 即興演奏の基礎⑦～フリースタイル（大森）
- 第9回 初見演奏・移調奏①（伴奏の初見・移調のトレーニング）（尾崎）
- 第10回 初見演奏・移調奏② / 音楽について語る⑦～「音楽家と読書」提示（尾崎）
- 第11回 初見演奏・移調奏③ / 音楽について語る⑧～「音楽家と読書」ディスカッション（尾崎）
- 第12回 初見演奏・移調奏④ / 音楽について語る⑨～「音楽家と読書」他者の意見を取り入れてさらにディスカッションをすすめ、まとめる（尾崎）
- 第13回 即興演奏のまとめ / ディスカッション・レポート① 準備（大森、尾崎）
- 第14回 初見演奏・移調奏のまとめ / ディスカッション・レポート② 構成（大森、尾崎）
- 第15回 即興演奏・初見演奏・移調奏の授業内小テスト。今まで行われたディスカッションでカバーしたテーマのうち一つ選択し、内容をまとめたレポートを提出。（大森、尾崎）
- 第16回
- 第17回
- 第18回
- 第19回
- 第20回
- 第21回
- 第22回
- 第23回
- 第24回
- 第25回
- 第26回
- 第27回
- 第28回
- 第29回
- 第30回

履修上の注意

即興演奏・初見演奏・移調奏については、学期末に授業内小テストを行う。各ディスカッション後、配付するディスカッションノートに内容を記入し、次の授業時に

提出。ディスカッションレポートは、A4サイズ1ページ程度、15回目に提出。普段から学内外の演奏会、インターネット配信される演奏、テレビの音楽番組等に接し、様々な演奏や楽曲を知る機会を積極的に持つこと。

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

この授業で学修する内容は演奏表現に直結するもので、毎日練習する楽曲への取り組み方に大きく関わってくる。自身が効果的な演奏をしているか、普段から意識すること。授業内容を深く修得できるよう、十分な予習（主に課題に対して30分）復習（授業1回の内容につき60分）をすること。提出したレポートについては、コメントを入れて返却する。

■ 教科書・参考書

必要に応じて持参指示、または資料を配付する。

科目名－クラス名

これからのピアノ表現Ⅳ

B

曜日時限

木 3時限

担当教員

尾崎 有飛

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験 授業内小テスト	合計	
				定期試験	筆記・実技	課題提出	作品提出			成果発表
演習	2～	後期	1		0	10	0	80	10	100

教育到達目標と概要

次世代を担うピアニストに必要な知識・技術を修得する。即興演奏、初見演奏、移調奏等の演奏スキルに加え、プレゼンテーション原稿の書き方、情報のまとめ方、説得力のあるプレゼンテーション方法など、各自がレクチャーリサイタルを行うためのノウハウを体系的に学ぶ。

学修成果

「これからのピアノ表現」の総括として、これまでに修得した技術・知識を土台に、レクチャーリサイタルを企画し実演することにより、各自が表現者・コミュニケーターであり、次世代を担う音楽家であることの自覚を持つ。

授業展開と内容

第1回	授業内容、目的の説明。前期Ⅲで学んだ即興演奏、初見演奏、移調奏の復習。（大森、尾崎）
第2回	即興・初見・移調① / 音楽について語る①～「クラシック音楽と別分野との接点」課題の提示（大森）
第3回	即興・初見・移調② / 音楽について語る②～「クラシック音楽と別分野との接点」ディスカッション（大森）
第4回	即興・初見・移調③ / 音楽について語る③～「初めて聴く曲の鑑賞について」鑑賞と課題（尾崎）
第5回	即興・初見・移調 授業内小テスト / 音楽について語る④～「初めて聴く曲の鑑賞について」ディスカッション（尾崎）
第6回	作品を言葉で伝える①～レポートの書き方： フォーマット、情報のまとめ方（大森）
第7回	作品を言葉で伝える②～レポートの書き方： 演習（大森）
第8回	作品を言葉で伝える③～ミニレクチャーリサイタル： 曲を決めて情報収集（大森）
第9回	作品を言葉で伝える④～ミニレクチャーリサイタル： 進行表、資料作り（大森）
第10回	作品を言葉で伝える⑤～ミニレクチャーリサイタル： 実演（大森）
第11回	レクチャーリサイタルへの準備①～後期試験曲について情報収集（大森、尾崎）
第12回	レクチャーリサイタルへの準備②～解説文の執筆（大森、尾崎）
第13回	レクチャーリサイタルへの準備③～説得力のあるプレゼンに向けて（大森、尾崎）
第14回	レクチャーリサイタル前半（後期試験曲をテーマに）（成果発表）（大森、尾崎）
第15回	レクチャーリサイタル後半（後期試験曲をテーマに）（成果発表）（大森、尾崎）
第16回	
第17回	
第18回	
第19回	
第20回	
第21回	
第22回	
第23回	
第24回	
第25回	
第26回	
第27回	
第28回	
第29回	
第30回	

履修上の注意

各ディスカッション後、配付するディスカッションノートに内容を記入し、次の授業時に提出。授業⑩のミニサイタル実演は、学期末のレクチャーリサイタルに向けての学びの場として行うため、成績評価は行わない。普段から学内外の演奏会、インターネット配信される演奏、テレビの音楽番組等に接し、様々な演奏や楽曲を知る機会を積極的に持つこと。

■ **授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法**

この授業で学修する内容は演奏表現に直結するもので、毎日練習する楽曲への取り組み方に大きく関わってくる。自身が効果的な練習をしているか、普段から意識すること。授業内容を深く修得できるよう、十分な予習（主に課題に対して30分）復習（授業1回の内容につき60分）を行うこと。音楽と言葉の結びつきを日頃から意識すること。

■ **教科書・参考書**

必要に応じて持参指示、または資料配付。

科目名－クラス名

これからのピアノ表現Ⅳ

研究生（留学生のみ）

曜日時限

木 3時限

担当教員

尾崎 有飛

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験				授業内小テスト	
演習	2～	後期	1	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		
				0	10	0	80	10	100

教育到達目標と概要

次世代を担うピアニストに必要な知識・技術を修得する。即興演奏、初見演奏、移調奏等の演奏スキルに加え、プレゼンテーション原稿の書き方、情報のまとめ方、説得力のあるプレゼンテーション方法など、各自がレクチャーリサイタルを行うためのノウハウを体系的に学ぶ。

学修成果

「これからのピアノ表現」の総括として、これまでに修得した技術・知識を土台に、レクチャーリサイタルを企画し実演することにより、各自が表現者・コミュニケーターであり、次世代を担う音楽家であることの自覚を持つ。

授業展開と内容

- 第1回 授業内容、目的の説明。前期Ⅲで学んだ即興演奏、初見演奏、移調奏の復習。（大森、尾崎）
- 第2回 即興・初見・移調① / 音楽について語る①～「クラシック音楽と別分野との接点」課題の提示（大森）
- 第3回 即興・初見・移調② / 音楽について語る②～「クラシック音楽と別分野との接点」ディスカッション（大森）
- 第4回 即興・初見・移調③ / 音楽について語る③～「初めて聴く曲の鑑賞について」鑑賞と課題（尾崎）
- 第5回 即興・初見・移調 授業内小テスト / 音楽について語る④～「初めて聴く曲の鑑賞について」ディスカッション（尾崎）
- 第6回 作品を言葉で伝える①～レポートの書き方： フォーマット、情報のまとめ方（大森）
- 第7回 作品を言葉で伝える②～レポートの書き方： 演習（大森）
- 第8回 作品を言葉で伝える③～ミニレクチャーリサイタル： 曲を決めて情報収集（大森）
- 第9回 作品を言葉で伝える④～ミニレクチャーリサイタル： 進行表、資料作り（大森）
- 第10回 作品を言葉で伝える⑤～ミニレクチャーリサイタル： 実演（大森）
- 第11回 レクチャーリサイタルへの準備①～後期試験曲について情報収集（大森、尾崎）
- 第12回 レクチャーリサイタルへの準備②～解説文の執筆（大森、尾崎）
- 第13回 レクチャーリサイタルへの準備③～説得力のあるプレゼンに向けて（大森、尾崎）
- 第14回 レクチャーリサイタル前半（後期試験曲をテーマに）（成果発表）（大森、尾崎）
- 第15回 レクチャーリサイタル後半（後期試験曲をテーマに）（成果発表）（大森、尾崎）
- 第16回
- 第17回
- 第18回
- 第19回
- 第20回
- 第21回
- 第22回
- 第23回
- 第24回
- 第25回
- 第26回
- 第27回
- 第28回
- 第29回
- 第30回

履修上の注意

各ディスカッション後、配付するディスカッションノートに内容を記入し、次の授業時に提出。授業⑩のミニサイタル実演は、学期末のレクチャーリサイタルに向けての学びの場として行うため、成績評価は行わない。普段から学内外の演奏会、インターネット配信される演奏、テレビの音楽番組等に接し、様々な演奏や楽曲を知る機会を積極的に持つこと。

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

この授業で学修する内容は演奏表現に直結するもので、毎日練習する楽曲への取り組み方に大きく関わってくる。自身が効果的な練習をしているか、普段から意識すること。授業内容を深く修得できるよう、十分な予習（主に課題に対して30分）復習（授業1回の内容につき60分）を行うこと。音楽と言葉の結びつきを日頃から意識すること。

■ 教科書・参考書

必要に応じて持参指示、または資料配付。

科目名－クラス名

ピアノ②

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験					
実技・実習	2～	通年	4	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
				100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

音楽教養コースのピアノ主科実技科目であり、また作曲・指揮コースの副科（指定者のみ）実技科目で、週1回45分レッスンをおこなう。1年次に引き続き様々なピアノ作品に触れ、個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景等についての学修を深める。2年次では一層広範なレパートリーの習得を目指しながら、前期実技定期試験ではロマン派・近現代のレパートリーに取り組み、さらに後期実技試験に向けて各自の実力にあった選曲をおこない、納得のいく成果が得られることを目標とする。音楽教養表現Ⅱを履修していない学生は、後期の16

学修成果

①様々なピアノ演奏に触れながら、多様な演奏法、多彩な音色・タッチ等について理解をより深めることができる。②和声感、リズム感等演奏表現に必要な多くの要素の研究を踏まえた上で、豊富な実践の場を経験することにより演奏能力を向上させることができる。③作曲家や作品についての深い理解と演奏解釈を身につけ、将来の活発な音楽活動等に必要な技術と音楽的知識、教養を高めることができる。

授業展開と内容

第1回	1年次の学修成果を踏まえた、個々の学生の現状における課題の点検
第2回	技術の問題について
第3回	音楽的表現方法について
第4回	バロック様式の鍵盤楽器奏法の特徴について
第5回	バロック作品の楽曲分析について
第6回	バロック鍵盤作品の演奏について
第7回	ロマン派のピアノ作品について
第8回	近現代のピアノ作品の特徴について
第9回	前期実技試験のための選曲
第10回	前期実技試験曲の作曲家の時代背景と特性について
第11回	前期実技試験曲の楽曲分析について
第12回	前期実技試験曲の技術的問題点について
第13回	前期実技試験曲の音楽的表現法について
第14回	前期実技試験において演奏レベルを向上させる方法について
第15回	前期実技試験に向けての精神面での訓練方法について
第16回	「音楽教養コースコンサート」で演奏する作品の特徴について
第17回	「音楽教養コースコンサート」で演奏する作品の技術的問題点について
第18回	「音楽教養コースコンサート」で演奏する作品の音楽的表現法について
第19回	「音楽教養コースコンサート」で演奏する作品の演奏レベルを向上させる方法について
第20回	「音楽教養コースコンサート」の成果について
第21回	バロック音楽からロマン派音楽への変遷 技術的問題
第22回	バロック音楽からロマン派音楽への変遷 音楽的な表現
第23回	バロック音楽からロマン派音楽への変遷 演奏解釈
第24回	後期実技試験曲の選曲について
第25回	後期実技試験の選曲決定
第26回	暗譜のための訓練方法について
第27回	後期実技試験曲の技術的問題点について
第28回	後期実技試験曲の音楽表現法について
第29回	後期実技試験曲の演奏レベルを向上させる方法について
第30回	後期実技試験曲通奏による完成に向けての最終確認

履修上の注意

上記授業展開は年間計画としての主要課題を示した物であり、実際は教育目標と概要に則って、各教員の判断により学生個々の状況に応じた課題を課していく。実技試験は前期1回、後期1回行い、その素点を基に成績評価を行う。各試験の日程と課題曲についてはその都度掲示発表する。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

レッスンを受講する際には、作品についての研究・分析を行い、充分準備をして臨むこと。招聘教授による公開講座・レッスン・演奏会等は聴講すること。

教科書・参考書

使用する教材及び出版については、実技担当教員が必要に応じて指定する。

科目名－クラス名

ピアノ②

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験					
実技・実習	2～	通年	4	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
				100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

音楽教養コースのピアノ主科実技科目で、週1回45分レッスンをおこなう。1年次に引き続き様々なピアノ作品に触れ、個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景等についての学修を深める。2年次では一層広範なレパートリーの習得を目指しながら、前期実技定期試験ではロマン派・近現代のレパートリーに取り組み、さらに後期は卒業試験に向けて各自の実力にあった選曲をおこない、納得のいく成果が得られることを目標とする。音楽と社会コースで音楽教養表現Ⅱを履修する学生は、音楽教養コースのピアノ主科実技と同じように授業を進める

学修成果

①様々なピアノ演奏に触れながら、多様な演奏法、多彩な音色・タッチ等について理解をより深めることができる。②和声感、リズム感等演奏表現に必要な多くの要素の研究を踏まえた上で、豊富な実践の場を経験することにより演奏能力を向上させることができる。③作曲家や作品についての深い理解と演奏解釈を身につけ、将来の活発な音楽活動等に必要な技術と音楽的知識、教養を高めることができる。

授業展開と内容

- 第1回 1年次の学習成果を踏まえた、個々の学生の現状における課題の点検
- 第2回 技術の問題について
- 第3回 音楽的表現方法について
- 第4回 バロック様式の鍵盤楽器奏法の特徴について
- 第5回 バロック作品の楽曲分析について
- 第6回 バロック鍵盤作品の演奏について
- 第7回 ロマン派のピアノ作品について
- 第8回 近現代のピアノ作品の特徴について
- 第9回 前期実技試験のための選曲
- 第10回 前期実技試験曲の作曲家の時代背景と特性について
- 第11回 前期実技試験曲の楽曲分析について
- 第12回 前期実技試験曲の技術的問題点について
- 第13回 前期実技試験曲の音楽的表現法について
- 第14回 前期実技試験において演奏レベルを向上させる方法について
- 第15回 前期実技試験に向けての精神面での訓練方法について
- 第16回 「コンサート」等で演奏する作品の特徴について
- 第17回 「コンサート」等で演奏する作品の技術的問題点について
- 第18回 「コンサート」等で演奏する作品の音楽的表現法について
- 第19回 「コンサート」等で演奏する作品の演奏レベルを向上させる方法について
- 第20回 近現代のピアノ作品の演奏法
- 第21回 卒業実技試験のための選曲
- 第22回 卒業実技試験曲の作曲家の時代背景と特性について
- 第23回 卒業実技試験曲の楽曲分析について
- 第24回 演奏解釈の多様性について
- 第25回 演奏技術の訓練方法について
- 第26回 暗譜のための訓練方法について
- 第27回 卒業実技試験曲の技術的問題点について
- 第28回 卒業実技試験曲の音楽表現法について
- 第29回 卒業実技試験曲の演奏レベルを向上させる方法について
- 第30回 卒業実技試験曲通奏による完成に向けての最終確認

履修上の注意

上記授業展開は年間計画としての主要課題を示した物であり、実際は教育目標と概要に則って、各教員の判断により学生個々の状況に応じた課題を課していく。実技試験は前期1回、後期1回行い、その素点を基に成績評価を行う。各試験の日程と課題曲についてはその都度掲示発表する。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

レッスンを受講する際には、作品研究を重ね、練習をし準備万端にして臨むこと。招聘教授による公開講座・レッスン・演奏会等は聴講すること。

教科書・参考書

使用する教材及び出版については、実技担当教員が必要に応じて指定する。

科目名－クラス名

ピアノ②

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価方法	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	2～	通年	4	評価方法	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

音楽教養コースのピアノ主科実技科目であり、また作曲・指揮コースの副科（指定者のみ）実技科目で、週1回45分レッスンをおこなう。1年次に引き続き様々なピアノ作品に触れ、個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景等についての学修を深める。2年次では一層広範なレパートリーの習得を目指しながら、前期実技定期試験ではロマン派・近現代のレパートリーに取り組み、さらに後期実技試験に向けて各自の実力にあった選曲をおこない、納得のいく成果が得られることを目標とする。音楽教養表現Ⅱを履修していない学生は、後期の16回目から20回目までの授業について、音楽的な表現を中心にレッスンを進める。

学修成果

①様々なピアノ演奏に触れながら、多様な演奏法、多彩な音色・タッチ等について理解をより深めることができる。②和声感、リズム感等演奏表現に必要な多くの要素の研究を踏まえた上で、豊富な実践の場を経験することにより演奏能力を向上させることができる。③作曲家や作品についての深い理解と演奏解釈を身につけ、将来の活発な音楽活動等に必要な技術と音楽的知識、教養を高めることができる。

授業展開と内容

第1回	1年次の学修成果を踏まえた、個々の学生の現状における課題の点検
第2回	技術の問題について
第3回	音楽的表現方法について
第4回	バロック様式の鍵盤楽器奏法の特徴について
第5回	バロック作品の楽曲分析について
第6回	バロック鍵盤作品の演奏について
第7回	ロマン派のピアノ作品について
第8回	近現代のピアノ作品の特徴について
第9回	前期実技試験のための選曲
第10回	前期実技試験曲の作曲家の時代背景と特性について
第11回	前期実技試験曲の楽曲分析について
第12回	前期実技試験曲の技術的問題点について
第13回	前期実技試験曲の音楽的表現法について
第14回	前期実技試験において演奏レベルを向上させる方法について
第15回	前期実技試験に向けての精神面での訓練方法について
第16回	「音楽教養コースコンサート」で演奏する作品の特徴について
第17回	「音楽教養コースコンサート」で演奏する作品の技術的問題点について
第18回	「音楽教養コースコンサート」で演奏する作品の音楽的表現法について
第19回	「音楽教養コースコンサート」で演奏する作品の演奏レベルを向上させる方法について
第20回	「音楽教養コースコンサート」の成果について
第21回	バロック音楽からロマン派音楽への変遷 技術的問題
第22回	バロック音楽からロマン派音楽への変遷 音楽的な表現
第23回	バロック音楽からロマン派音楽への変遷 演奏解釈
第24回	後期実技試験曲の選曲について
第25回	後期実技試験の選曲決定
第26回	暗譜のための訓練方法について
第27回	後期実技試験曲の技術的問題点について
第28回	後期実技試験曲の音楽表現法について
第29回	後期実技試験曲の演奏レベルを向上させる方法について
第30回	後期実技試験曲通奏による完成に向けての最終確認

履修上の注意

上記授業展開は年間計画としての主要課題を示した物であり、実際は教育目標と概要に則って、各教員の判断により学生個々の状況に応じた課題を課していく。実技試験は前期1回、後期1回行い、その素点を基に成績評価を行う。各試験の日程と課題曲についてはその都度掲示発表する。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

レッスンを受講する際には、作品についての研究・分析を行い、充分準備をして臨むこと。招聘教授による公開講座・レッスン・演奏会等は聴講すること。

教科書・参考書

使用する教材及び出版については、実技担当教員が必要に応じて指定する。

科目名－クラス名

ピアノ②

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価方法	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	2～	通年	4	評価方法	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

音楽教養コースのピアノ主科実技科目で、週1回45分レッスンをおこなう。1年次に引き続き様々なピアノ作品に触れ、個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景等についての学修を深める。2年次では一層広範なレパートリーの習得を目指しながら、前期実技定期試験ではロマン派・近現代のレパートリーに取り組み、さらに後期は卒業試験に向けて各自の実力にあった選曲をおこない、納得のいく成果が得られることを目標とする。音楽と社会コースで音楽教養表現Ⅱを履修する学生は、音楽教養コースのピアノ主科実技と同じように授業を進める。音楽と社会コースで音楽教養表現Ⅱを履修しない学生は、後期の16回目から19回目までは、音楽的な表現を中心にレッスンを進める。

学修成果

①様々なピアノ演奏に触れながら、多様な演奏法、多彩な音色・タッチ等について理解をより深めることができる。②和声感、リズム感等演奏表現に必要な多くの要素の研究を踏まえた上で、豊富な実践の場を経験することにより演奏能力を向上させることができる。③作曲家や作品についての深い理解と演奏解釈を身につけ、将来の活発な音楽活動等に必要技術と音楽的知識、教養を高めることができる。

授業展開と内容

- 第1回 1年次の学習成果を踏まえた、個々の学生の現状における課題の点検
- 第2回 技術の問題点について
- 第3回 音楽的表現方法について
- 第4回 バロック様式の鍵盤楽器奏法の特徴について
- 第5回 バロック作品の楽曲分析について
- 第6回 バロック鍵盤作品の演奏について
- 第7回 ロマン派のピアノ作品について
- 第8回 近現代のピアノ作品の特徴について
- 第9回 前期実技試験のための選曲
- 第10回 前期実技試験曲の作曲家の時代背景と特性について
- 第11回 前期実技試験曲の楽曲分析について
- 第12回 前期実技試験曲の技術的問題点について
- 第13回 前期実技試験曲の音楽的表現法について
- 第14回 前期実技試験において演奏レベルを向上させる方法について
- 第15回 前期実技試験に向けての精神面での訓練方法について
- 第16回 「コンサート」等で演奏する作品の特徴について
- 第17回 「コンサート」等で演奏する作品の技術的問題点について
- 第18回 「コンサート」等で演奏する作品の音楽的表現法について
- 第19回 「コンサート」等で演奏する作品の演奏レベルを向上させる方法について
- 第20回 近現代のピアノ作品の演奏法
- 第21回 卒業実技試験のための選曲
- 第22回 卒業実技試験曲の作曲家の時代背景と特性について
- 第23回 卒業実技試験曲の楽曲分析について
- 第24回 演奏解釈の多様性について
- 第25回 演奏技術の訓練方法について
- 第26回 暗譜のための訓練方法について
- 第27回 卒業実技試験曲の技術的問題点について
- 第28回 卒業実技試験曲の音楽表現法について
- 第29回 卒業実技試験曲の演奏レベルを向上させる方法について

履修上の注意

上記授業展開は年間計画としての主要課題を示した物であり、実際は教育目標と概要に則って、各教員の判断により学生個々の状況に応じた課題を課していく。実技試験は前期1回、後期1回行い、その素点を基に成績評価を行う。各試験の日程と課題曲についてはその都度掲示発表する。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

レッスンを受講する際には、作品研究を重ね、練習をし準備万端にして臨むこと。招聘教授による公開講座・レッスン・演奏会等は聴講すること。

教科書・参考書

使用する教材及び出版については、実技担当教員が必要に応じて指定する。

科目名－クラス名

ピアノ②

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験					
実技・実習	2～	通年	4	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
				100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

音楽教養コースのピアノ主科実技科目で、週1回45分レッスンをおこなう。1年次に引き続き様々なピアノ作品に触れ、個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景等についての学修を深める。2年次では一層広範なレパートリーの習得を目指しながら、前期実技定期試験ではロマン派・近現代のレパートリーに取り組み、さらに後期は卒業試験に向けて各自の実力にあった選曲をおこない、納得のいく成果が得られることを目標とする。音楽と社会コースで音楽教養表現Ⅱを履修する学生は、音楽教養コースのピアノ主科実技と同じように授業を進める

学修成果

①様々なピアノ演奏に触れながら、多様な演奏法、多彩な音色・タッチ等について理解をより深めることができる。②和声感、リズム感等演奏表現に必要な多くの要素の研究を踏まえた上で、豊富な実践の場を経験することにより演奏能力を向上させることができる。③作曲家や作品についての深い理解と演奏解釈を身につけ、将来の活発な音楽活動等に必要な技術と音楽的知識、教養を高めることができる。

授業展開と内容

第1回	1年次の学習成果を踏まえた、個々の学生の現状における課題の点検
第2回	技術の問題について
第3回	音楽的表現方法について
第4回	バロック様式の鍵盤楽器奏法の特徴について
第5回	バロック作品の楽曲分析について
第6回	バロック鍵盤作品の演奏について
第7回	ロマン派のピアノ作品について
第8回	近現代のピアノ作品の特徴について
第9回	前期実技試験のための選曲
第10回	前期実技試験曲の作曲家の時代背景と特性について
第11回	前期実技試験曲の楽曲分析について
第12回	前期実技試験曲の技術的問題点について
第13回	前期実技試験曲の音楽的表現法について
第14回	前期実技試験において演奏レベルを向上させる方法について
第15回	前期実技試験に向けての精神面での訓練方法について
第16回	「コンサート」等で演奏する作品の特徴について
第17回	「コンサート」等で演奏する作品の技術的問題点について
第18回	「コンサート」等で演奏する作品の音楽的表現法について
第19回	「コンサート」等で演奏する作品の演奏レベルを向上させる方法について
第20回	近現代のピアノ作品の演奏法
第21回	卒業実技試験のための選曲
第22回	卒業実技試験曲の作曲家の時代背景と特性について
第23回	卒業実技試験曲の楽曲分析について
第24回	演奏解釈の多様性について
第25回	演奏技術の訓練方法について
第26回	暗譜のための訓練方法について
第27回	卒業実技試験曲の技術的問題点について
第28回	卒業実技試験曲の音楽表現法について
第29回	卒業実技試験曲の演奏レベルを向上させる方法について
第30回	卒業実技試験曲通奏による完成に向けての最終確認

履修上の注意

上記授業展開は年間計画としての主要課題を示した物であり、実際は教育目標と概要に則って、各教員の判断により学生個々の状況に応じた課題を課していく。実技試験は前期1回、後期1回行い、その素点を基に成績評価を行う。各試験の日程と課題曲についてはその都度掲示発表する。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

レッスンを受講する際には、作品研究を重ね、練習をし準備万端にして臨むこと。招聘教授による公開講座・レッスン・演奏会等は聴講すること。

教科書・参考書

使用する教材及び出版については、実技担当教員が必要に応じて指定する。

科目名－クラス名

ピアノ③

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験					
実技・実習	3～	通年	4	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
				100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

音楽教養コースのピアノ主科実技科目であり、また作曲・指揮コースの副科（指定者のみ）実技科目で、週1回45分レッスンをを行う。1年次、2年次に引き続き様々なピアノ作品に触れ、個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景等についての学修をさらに深める。3年次ではさらに高度なテクニックを修得し、音楽的表現の向上を目指す。バロックから古典派、ロマン派、近現代と幅広い分野の音楽に触れる。各自の実力に合った選曲を行い、納得のいく音楽表現が出来ることを目標とする。特に前期では腕の脱力、指の強化に努め、後期ではそれ

学修成果

①様々な作曲家の作品に触れ、多様な演奏法、多彩な音色、タッチについてさらに理解を深めることが出来る。②腕の脱力、指の強化により、今までよりレベルの高い曲を演奏することが出来る。③和声感、リズム感に必要な多くの要素の研究を踏まえた上で、豊富な実践の場を経験することにより、演奏能力を高めることが出来る。④作曲家や作品についての深い理解と演奏能力を身につけ、将来の音楽活動等に必要な技術と音楽的知識、教養を高めることが出来る。

授業展開と内容

第1回	2年次までの学修成果を踏まえた、個々の学生の現状における課題の点検
第2回	腕の脱力と音質の関係
第3回	腕の筋力の強化について
第4回	指の強化について①はっきりとした音の出し方
第5回	指の強化について②指と鍵盤との関係
第6回	指の強化について③柔軟な手首の使い方
第7回	指の強化について④指使い、運指
第8回	バロック様式の鍵盤楽器奏法について
第9回	バロック様式のテンポについて
第10回	バロック様式の楽曲分析について
第11回	前期実技試験曲の選曲
第12回	前期実技試験の作曲家の時代背景と特徴について
第13回	前期実技試験の楽曲分析について
第14回	前期実技試験の技術的問題点について
第15回	前期実技試験の音楽的表現について
第16回	古典派作曲家の作品①技術的問題点
第17回	古典派作曲家の作品②音楽的表現
第18回	古典派作曲家の作品③演奏解釈
第19回	ロマン派作曲家の作品①技術的問題点
第20回	ロマン派作曲家の作品②音楽的表現
第21回	ロマン派作曲家の作品③演奏解釈
第22回	近現代作曲家の作品①技術的問題点
第23回	近現代作曲家の作品②音楽的表現
第24回	近現代作曲家の作品③演奏解釈
第25回	後期実技試験曲の選曲
第26回	後期実技試験曲の技術的な問題点について
第27回	後期実技試験曲の音楽的な表現方法について
第28回	後期実技試験曲の演奏におけるレベルの向上の方法
第29回	後期実技試験曲の暗譜の確認、方法について
第30回	後期実技試験曲の通奏についての最終確認

履修上の注意

上記授業展開は年間計画の主要課題を示したものであり、教育目標と概要に沿って、各教員の判断により学生個々に応じた課題を課していく。実技試験は前期1回、後期1回行い、その素点をもとに成績評価を行う。各試験の日程と課題曲についてはその都度掲示発表する。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

レッスンを受講する際には、作品についての研究・分析を行い、充分準備をして臨むこと。招聘教授による公開講座、公開レッスンは聴講すること。積極的に演奏会等を聴きに行くこと。

教科書・参考書

使用する教材等については、実技担当教員が必要に応じて指定する。

科目名－クラス名

ピアノ③

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験					
実技・実習	3～	通年	4	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
				100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

音楽教養コースのピアノ主科実技科目であり、また作曲・指揮コースの副科（指定者のみ）実技科目で、週1回45分レッスンをを行う。1年次、2年次に引き続き様々なピアノ作品に触れ、個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景等についての学修をさらに深める。3年次ではさらに高度なテクニックを修得し、音楽的表現の向上を目指す。バロックから古典派、ロマン派、近現代と幅広い分野の音楽に触れる。各自の実力に合った選曲を行い、納得のいく音楽表現が出来ることを目標とする。特に前期では腕の脱力、指の強化に努め、後期ではそれをもとに音楽の演奏法を修得する。

学修成果

①様々な作曲家の作品に触れ、多様な演奏法、多彩な音色、タッチについてさらに理解を深めることが出来る。②腕の脱力、指の強化により、今までよりレベルの高い曲を演奏することが出来る。③和声感、リズム感に必要な多くの要素の研究を踏まえた上で、豊富な実践の場を経験することにより、演奏能力を高めることが出来る。④作曲家や作品についての深い理解と演奏能力を身につけ、将来の音楽活動等に必要な技術と音楽的知識、教養を高めることが出来る。

授業展開と内容

第1回	2年次までの学修成果を踏まえた、個々の学生の現状における課題の点検
第2回	腕の脱力と音質の関係
第3回	腕の筋力の強化について
第4回	指の強化について①はっきりとした音の出し方
第5回	指の強化について②指と鍵盤との関係
第6回	指の強化について③柔軟な手首の使い方
第7回	指の強化について④指使い、運指
第8回	バロック様式の鍵盤楽器奏法について
第9回	バロック様式のテンポについて
第10回	バロック様式の楽曲分析について
第11回	前期実技試験曲の選曲
第12回	前期実技試験の作曲家の時代背景と特徴について
第13回	前期実技試験の楽曲分析について
第14回	前期実技試験の技術的問題点について
第15回	前期実技試験の音楽的表現について
第16回	古典派作曲家の作品①技術的問題点
第17回	古典派作曲家の作品②音楽的表現
第18回	古典派作曲家の作品③演奏解釈
第19回	ロマン派作曲家の作品①技術的問題点
第20回	ロマン派作曲家の作品②音楽的表現
第21回	ロマン派作曲家の作品③演奏解釈
第22回	近現代作曲家の作品①技術的問題点
第23回	近現代作曲家の作品②音楽的表現
第24回	近現代作曲家の作品③演奏解釈
第25回	後期実技試験曲の選曲
第26回	後期実技試験曲の技術的な問題点について
第27回	後期実技試験曲の音楽的な表現方法について
第28回	後期実技試験曲の演奏におけるレベルの向上の方法
第29回	後期実技試験曲の暗譜の確認、方法について
第30回	後期実技試験曲の通奏についての最終確認

履修上の注意

上記授業展開は年間計画の主要課題を示したものであり、教育目標と概要に沿って、各教員の判断により学生個々に応じた課題を課していく。実技試験は前期1回、後期1回行い、その素点をもとに成績評価を行う。各試験の日程と課題曲についてはその都度掲示発表する。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

レッスンを受講する際には、作品についての研究・分析を行い、充分準備をして臨むこと。招聘教授による公開講座、公開レッスンは聴講すること。積極的に演奏会等を聴きに行くこと。

教科書・参考書

使用する教材等については、実技担当教員が必要に応じて指定する。

科目名－クラス名

ピアノⅠ①

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験 授業内小テスト	合計
				定期試験	筆記・実技	課題提出	作品提出		
実技・実習	1～	通年	6	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

ピアノミュージッククリエイターコース、ピアノ指導者コース、ピアノ音楽コースの主科実技（個人レッスン週1回60分）科目である。ピアノ（鍵盤）音楽について、演奏という行為を通して理解を深めていくことを目標としている。いわゆるヨーロッパ音楽を中心に、その歴史的な流れに沿って様々な作品に触れ、個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景などについて学修する。具体的には、4年次までにバロック時代の音楽から、古典派、ロマン派を経て近現代の作品を概観する。

学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）について研究し、また和声感、リズム感など演奏表現に必要な多くの要素を磨き、表現力を養っていく。学修した主要な作品については、レパートリーとしてしっかりと身に付けていく。

授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（年間レッスン計画、目的、勉強方法等）
第2回	テクニック修得に基づく基礎知識
第3回	指の強化トレーニング方法
第4回	敏捷性トレーニング方法
第5回	エチュード作品奏法
第6回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第7回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第8回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
第9回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを修得する）
第10回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第11回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第12回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第13回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
第14回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第15回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）
第16回	スケールの奏法について
第17回	音楽的表現に沿った脱力奏法について
第18回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者について理解する）
第19回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（原典版・校訂版、関連文献・資料について学修する）
第20回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第21回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第22回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第23回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（ロマン派における演奏スタイルを学ぶ）
第24回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（ロマン派における演奏スタイル等を修得する）
第25回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第26回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第27回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第28回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
第29回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第30回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）

履修上の注意

実技試験課題曲については、その都度発表する。前期1回、後期1回試験を行い、その素点を基に評価する。大学が開催する演奏会・招聘教授による公開講座・レッスン等を積極的に受講すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

十分に練習し、レッスン受講の準備をすること

教科書・参考書

適宜資料等を配付する

科目名－クラス名

ピアノⅠ①

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	1～	通年	6	評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

音楽科ピアノコースの週1回60分主科実技科目である。ピアノ（鍵盤）音楽について、演奏を通して理解を深めていくことを目標としている。ヨーロッパ音楽を起点とし、その歴史的な流れに沿って様々な作品に触れ、個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景等について学修する。具体的には、1年次では基礎的演奏技術を習得、2年次までにバロック時代の音楽から、古典派、ロマン派を経て近現代の作品を概観する。

学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）等について研究し、また和声感、リズム感等演奏表現に必要な多くの要素を磨き、表現力を養っていく。

授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（年間レッスン計画、目的、勉強方法等）
第2回	様々なテクニック修得に基づく基礎知識
第3回	エチュード試験に向けて（作品内容を理解する）
第4回	エチュード試験に向けて（指の強化トレーニング方法）
第5回	エチュード試験に向けて（敏捷性トレーニング方法）
第6回	エチュード試験に向けて（音楽表現を学ぶ）
第7回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第8回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析、楽曲内容を理解する）
第9回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（古典派における演奏スタイルを学ぶ）
第10回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（古典派における演奏スタイルを修得する）
第11回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第12回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探るとともに、演奏解釈を学ぶ）
第13回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を活かす）
第14回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第15回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）
第16回	スケールの奏法について
第17回	音楽的表現に沿った脱力奏法について
第18回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者について理解する）
第19回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第20回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第21回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第22回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第23回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（ロマン派における演奏スタイルを学ぶ）
第24回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（ロマン派における演奏スタイル等を修得する）
第25回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第26回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第27回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第28回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を活かす）
第29回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第30回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得し、自己の演奏を検証する）

履修上の注意

実技試験課題曲についてはその都度掲示発表する。前期1回、後期1回試験を行い、その素点を基に評価する。大学が開催する演奏会・招聘教授による公開講座・レッスン等を積極的に受講すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

レッスンを受講する際には、充分練習をし準備をして臨むこと。

教科書・参考書

適宜資料等を配付する。

科目名－クラス名

ピアノⅠ①

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験					
実技・実習	1～	通年	6	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
				100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

ピアノミュージッククリエイターコース、ピアノ指導者コース、ピアノ音楽コースの主科実技（個人レッスン週1回60分）科目である。ピアノ（鍵盤）音楽について、演奏という行為を通して理解を深めていくことを目標としている。いわゆるヨーロッパ音楽を中心に、その歴史的な流れに沿って様々な作品に触れ、個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景などについて学修する。具体的には、4年次までにバロック時代の音楽から、古典派、ロマン派を経て近現代の作品を概観する。

学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）について研究し、また和声感、リズム感など演奏表現に必要な多くの要素を磨き、表現力を養っていく。学修した主要な作品については、レパートリーとしてしっかりと身に付けていく。

授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（年間レッスン計画、目的、勉強方法等）
第2回	テクニック修得に基づく基礎知識
第3回	指の強化トレーニング方法
第4回	敏捷性トレーニング方法
第5回	エチュード作品奏法
第6回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第7回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第8回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
第9回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを修得する）
第10回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第11回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第12回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第13回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
第14回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第15回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）
第16回	スケールの奏法について
第17回	音楽的表現に沿った脱力奏法について
第18回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者について理解する）
第19回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（原典版・校訂版、関連文献・資料について学修する）
第20回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第21回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第22回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第23回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（ロマン派における演奏スタイルを学ぶ）
第24回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（ロマン派における演奏スタイル等を修得する）
第25回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第26回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第27回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第28回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
第29回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第30回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）

履修上の注意

実技試験課題曲については、その都度発表する。前期1回、後期1回試験を行い、その素点を基に評価する。大学が開催する演奏会・招聘教授による公開講座・レッスン等を積極的に受講すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

十分に練習し、レッスン受講の準備をすること

教科書・参考書

適宜資料等を配付する

科目名－クラス名

ピアノⅠ②

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	2～	通年	6	評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

ピアノミュージッククリエイターコース、ピアノ指導者コース、ピアノ音楽コースの主科実技（個人レッスン週1回60分）科目である。ピアノ（鍵盤）音楽について、演奏という行為を通して理解を深めていくことを目標としている。いわゆるヨーロッパ音楽を中心に、その歴史的な流れに沿って様々な作品に触れ、個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景などについて学修する。具体的には、4年次までにバロック時代の音楽から、古典派、ロマン派を経て近現代の作品を概観する。

学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）等について研究し、また和声感、リズム感等演奏表現に必要な多くの要素を磨き、表現力を養っていく。学修した主要な作品については、レパートリーとしてしっかりと身に付けていく。

授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（年間レッスン計画、目的、勉強方法等）
第2回	音楽的表現に基づく腕・上体の使い方
第3回	スケール試験に向けて（タッチ強化トレーニング方法）
第4回	スケール試験に向けて（敏捷性トレーニング方法）
第5回	スケール試験に向けて（技術的問題点を挙げる）
第6回	スケール試験に向けて（技術的問題点等の解決方法を探る）
第7回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第8回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第9回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（バロック時代における演奏スタイルを学ぶ）
第10回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（近現代作品における演奏スタイルを学ぶ）
第11回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第12回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第13回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
第14回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第15回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）
第16回	個々の学生に応じた課題について
第17回	個性ある演奏表現について学ぶ
第18回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者について理解する）
第19回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第20回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第21回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第22回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第23回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
第24回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイル等を修得する）
第25回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第26回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点等の解決方法を探る）
第27回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第28回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を修得する）
第29回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第30回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）

履修上の注意

実技試験課題曲についてはその都度掲示発表する。前期1回、後期1回試験を行い、その素点を基に評価する。大学が開催する演奏会・招聘教授による公開講座・レッスン等を積極的に受講すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

十分に練習し、レッスン受講の準備をすること

教科書・参考書

適宜資料等を配付する

科目名－クラス名

ピアノⅠ②

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	2～	通年	6	評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

ピアノコースの主科実技（個人レッスン週1回60分）科目である。ピアノ（鍵盤）音楽について、演奏という行為を通して理解を深めていくことを目標としている。所謂ヨーロッパ音楽を中心に、その歴史的な流れに沿って様々な作品に触れ、個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景などについて学修する。具体的には、4年次までにバロック時代の音楽から、古典派、ロマン派を経て近現代の作品を概観する。

学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）等について研究し、また和声感、リズム感等演奏表現に必要な多くの要素を磨き、表現力を養っていく。学修した主要な作品については、レパートリーとしてしっかりと身に付けていく。

授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（年間レッスン計画、目的、勉強方法等）
第2回	音楽的表現に基づく腕・上体の使い方
第3回	スケール試験に向けて（タッチ強化トレーニング方法）
第4回	スケール試験に向けて（敏捷性トレーニング方法）
第5回	スケール試験に向けて（技術的問題点を挙げる）
第6回	スケール試験に向けて（技術的問題点等の解決方法を探る）
第7回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第8回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第9回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（バロック時代における演奏スタイルを学ぶ）
第10回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（近現代作品における演奏スタイルを学ぶ）
第11回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第12回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第13回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
第14回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第15回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）
第16回	個々の学生に応じた課題について
第17回	個性ある演奏表現について学ぶ
第18回	卒業試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者について理解する）
第19回	卒業試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第20回	卒業試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第21回	卒業試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第22回	卒業試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第23回	卒業試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
第24回	卒業試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイル等を修得する）
第25回	卒業試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第26回	卒業試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点等の解決方法を探る）
第27回	卒業試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第28回	卒業試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を修得する）
第29回	卒業試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第30回	卒業試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）

履修上の注意

実技試験課題曲についてはその都度掲示発表する。前期1回、後期1回試験を行い、その素点を基に評価する。大学が開催する演奏会・招聘教授による公開講座・レッスン等を積極的に受講すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

十分に練習し、レッスン受講の準備をすること

教科書・参考書

適宜資料等を配付する

科目名－クラス名

ピアノⅠ②

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験					
実技・実習	2～	通年	6	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
				100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

ピアノミュージッククリエイターコース、ピアノ指導者コース、ピアノ音楽コースの主科実技（個人レッスン週1回60分）科目である。ピアノ（鍵盤）音楽について、演奏という行為を通して理解を深めていくことを目標としている。いわゆるヨーロッパ音楽を中心に、その歴史的な流れに沿って様々な作品に触れ、個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景などについて学修する。具体的には、4年次までにバロック時代の音楽から、古典派、ロマン派を経て近現代の作品を概観する。

学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）等について研究し、また和声感、リズム感等演奏表現に必要な多くの要素を磨き、表現力を養っていく。学修した主要な作品については、レパートリーとしてしっかりと身に付けていく。

授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（年間レッスン計画、目的、勉強方法等）
第2回	音楽的表現に基づく腕・上体の使い方
第3回	スケール試験に向けて（タッチ強化トレーニング方法）
第4回	スケール試験に向けて（敏捷性トレーニング方法）
第5回	スケール試験に向けて（技術的問題点を挙げる）
第6回	スケール試験に向けて（技術的問題点等の解決方法を探る）
第7回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第8回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第9回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（バロック時代における演奏スタイルを学ぶ）
第10回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（近現代作品における演奏スタイルを学ぶ）
第11回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第12回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第13回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
第14回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第15回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）
第16回	個々の学生に応じた課題について
第17回	個性ある演奏表現について学ぶ
第18回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者について理解する）
第19回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第20回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第21回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第22回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第23回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
第24回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイル等を修得する）
第25回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第26回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点等の解決方法を探る）
第27回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第28回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を修得する）
第29回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第30回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）

履修上の注意

実技試験課題曲についてはその都度掲示発表する。前期1回、後期1回試験を行い、その素点を基に評価する。大学が開催する演奏会・招聘教授による公開講座・レッスン等を積極的に受講すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

十分に練習し、レッスン受講の準備をすること

教科書・参考書

適宜資料等を配付する

科目名－クラス名

ピアノⅠ④

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	4～	通年	6	評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

ピアノミュージッククリエイターコース、ピアノ指導者コースの主科実技（実技レッスン）科目である。ピアノ（鍵盤）音楽について、演奏という行為を通して理解を深めていくことを目標としている。ヨーロッパ音楽を起点とし、その歴史的な流れに沿って様々な作品に触れ、個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景などについて学修する。具体的には、4年次までにバロック時代の音楽から、古典派、ロマン派を経て近現代の作品を概観する。

学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）について研究し、また和声感、リズム感など演奏表現に必要な多くの要素を磨き、表現力を養っていく。学修した主要な作品については、レパートリーとしてしっかりと身に付けていく。

授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（年間レッスン計画、目的、勉強方法等）
第2回	民族主義的な作曲家作品を視野に入れたレッスン（作曲家についての理解を深める）
第3回	民族的主義的な作曲家作品を視野に入れたレッスン（楽曲内容を学ぶ）
第4回	20世紀の作曲家作品を視野に入れたレッスン（作曲家についての理解を深める）
第5回	20世紀の作曲家作品を視野に入れたレッスン（楽曲内容を学ぶ）
第6回	前期実技試験曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第7回	前期実技試験曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第8回	前期実技試験曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
第9回	前期実技試験曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを修得する）
第10回	前期実技試験曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第11回	前期実技試験曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第12回	前期実技試験曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第13回	前期実技試験曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を活かす）
第14回	前期実技試験曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第15回	前期実技試験曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）
第16回	個々における技術的問題点について
第17回	邦人作曲家作品について
第18回	卒業実技試験曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解を深める）
第19回	卒業実技試験曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第20回	卒業実技試験曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第21回	卒業実技試験曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第22回	卒業実技試験曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第23回	卒業実技試験曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
第24回	卒業実技試験曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを修得する）
第25回	卒業実技試験曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第26回	卒業実技試験曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第27回	卒業実技試験曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第28回	卒業実技試験曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を活かす）
第29回	卒業実技試験曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第30回	卒業実技試験曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）

履修上の注意

実技試験課題曲については、その都度発表する。前期1回、後期1回試験を行い、その素点を基に評価する。大学が開催する演奏会・招聘教授による公開講座・レッスン等を積極的に受講すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

レッスンを受講する際には、充分準備をして臨むこと

教科書・参考書

適宜資料等を配付する

科目名－クラス名

ピアノⅠ④

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計	
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出			成果発表
実技・実習	4～	通年	6	評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

ピアノミュージッククリエイターコース、ピアノ指導者コースの主科実技（実技レッスン）科目である。ピアノ（鍵盤）音楽について、演奏という行為を通して理解を深めていくことを目標としている。ヨーロッパ音楽を起点とし、その歴史的な流れに沿って様々な作品に触れ、個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景などについて学修する。具体的には、4年次までにバロック時代の音楽から、古典派、ロマン派を経て近現代の作品を概観する。

学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）について研究し、また和声感、リズム感など演奏表現に必要な多くの要素を磨き、表現力を養っていく。学修した主要な作品については、レパートリーとしてしっかりと身に付けていく。

授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（年間レッスン計画、目的、勉強方法等）
第2回	民族主義的な作曲家作品を視野に入れたレッスン（作曲家についての理解を深める）
第3回	民族的主義的な作曲家作品を視野に入れたレッスン（楽曲内容を学ぶ）
第4回	20世紀の作曲家作品を視野に入れたレッスン（作曲家についての理解を深める）
第5回	20世紀の作曲家作品を視野に入れたレッスン（楽曲内容を学ぶ）
第6回	前期実技試験曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第7回	前期実技試験曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第8回	前期実技試験曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
第9回	前期実技試験曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを修得する）
第10回	前期実技試験曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第11回	前期実技試験曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第12回	前期実技試験曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第13回	前期実技試験曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を活かす）
第14回	前期実技試験曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第15回	前期実技試験曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）
第16回	個々における技術的問題点について
第17回	邦人作曲家作品について
第18回	卒業実技試験曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解を深める）
第19回	卒業実技試験曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第20回	卒業実技試験曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第21回	卒業実技試験曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第22回	卒業実技試験曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第23回	卒業実技試験曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
第24回	卒業実技試験曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを修得する）
第25回	卒業実技試験曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第26回	卒業実技試験曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第27回	卒業実技試験曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第28回	卒業実技試験曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を活かす）
第29回	卒業実技試験曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第30回	卒業実技試験曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）

履修上の注意

実技試験課題曲については、その都度発表する。前期1回、後期1回試験を行い、その素点を基に評価する。大学が開催する演奏会・招聘教授による公開講座・レッスン等を積極的に受講すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

レッスンを受講する際には、充分準備をして臨むこと

教科書・参考書

適宜資料等を配付する

科目名－クラス名

ピアノ実技Ⅰ①

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	1～	通年	9	評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

ピアノ演奏家コースの主科実技科目（個人レッスン週1回90分）である。演奏家として活躍していく上で必要なレパートリー（協奏曲を含む）を中心に学修する。個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景などについても研究し、4年次までにバロック時代の音楽から、古典派、ロマン派を経て近現代の作品までを学ぶ。なお、4年次前期実技試験課題は協奏曲である。

学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）について研究し、また和声感、リズム感など演奏表現に必要な様々な要素を磨き、演奏家として必要な表現力を養っていく。

授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（レッスン計画、目的、勉強方法等）
第2回	個々の課題における改善方法
第3回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解を深める）
第4回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第5回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第6回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第7回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第8回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
第9回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを修得する）
第10回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第11回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第12回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第13回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
第14回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第15回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）
第16回	オリエンテーション（レッスン計画、目的、勉強方法等）
第17回	個々の課題における改善方法
第18回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解を深める）
第19回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第20回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第21回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第22回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第23回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
第24回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを修得する）
第25回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第26回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第27回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第28回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
第29回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第30回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）

履修上の注意

実技試験課題曲については、その都度発表する。前期1回、後期1回試験を行い、その素点を基に評価する。大学が開催する演奏会・招聘教授による公開講座・レッスン等を積極的に受講すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

十分に練習し、レッスン受講の準備をすること

教科書・参考書

適宜資料等を配付する

科目名－クラス名

ピアノ実技Ⅰ①

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	1～	通年	9	評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

ピアノ演奏家コースの主科実技科目（個人レッスン週1回90分）である。演奏家として活躍していく上で必要なレパートリー（協奏曲を含む）を中心に学修する。個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景などについても研究し、4年次までにバロック時代の音楽から、古典派、ロマン派を経て近現代の作品までを学ぶ。なお、4年次前期実技試験課題は協奏曲である。

学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）について研究し、また和声感、リズム感など演奏表現に必要な様々な要素を磨き、演奏家として必要な表現力を養っていく。

授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（レッスン計画、目的、勉強方法等）
第2回	個々の課題における改善方法
第3回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解を深める）
第4回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第5回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第6回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第7回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第8回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
第9回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを修得する）
第10回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第11回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第12回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第13回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
第14回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第15回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）
第16回	オリエンテーション（レッスン計画、目的、勉強方法等）
第17回	個々の課題における改善方法
第18回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解を深める）
第19回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第20回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第21回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第22回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第23回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
第24回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを修得する）
第25回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第26回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第27回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第28回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
第29回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第30回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）

履修上の注意

実技試験課題曲については、その都度発表する。前期1回、後期1回試験を行い、その素点を基に評価する。大学が開催する演奏会・招聘教授による公開講座・レッスン等を積極的に受講すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

十分に練習し、レッスン受講の準備をすること

教科書・参考書

適宜資料等を配付する

科目名－クラス名

ピアノ実技Ⅰ④

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	4～	通年	9	評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

ピアノ演奏家Ⅰコースの主科実技科目（実技レッスン）である。演奏家として活躍していく上で必要なレパートリー（協奏曲を含む）を中心に学習する。個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景などについても研究し、4年次までにバロック時代の音楽から、古典派、ロマン派を経て近現代の作品までを学ぶ。なお、4年次前期実技試験課題は協奏曲である。

学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）等について研究し、また和声感、リズム感など演奏表現に必要な様々な要素を磨き、演奏家として必要な表現力を養っていく。

授業展開と内容

第1回	前期オリエンテーション（レッスン計画、目的、勉強方法等）
第2回	個々の課題における改善方法
第3回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解を深める）
第4回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第5回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第6回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第7回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第8回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品に則した演奏スタイルを学ぶ）
第9回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品に則した演奏スタイルを修得する）
第10回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第11回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第12回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第13回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を活かす）
第14回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第15回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）
第16回	後期オリエンテーション（レッスン計画、目的、勉強方法等）
第17回	個々の課題における改善方法
第18回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解を深める）
第19回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第20回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第21回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第22回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第23回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品に則した演奏スタイルを学ぶ）
第24回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品に則した演奏スタイルを修得する）
第25回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第26回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第27回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第28回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を活かす）
第29回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第30回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）

履修上の注意

実技試験課題曲については、その都度発表する。前期1回、後期1回試験を行い、その素点を基に評価する。大学が開催する演奏会・招聘教授による公開講座・レッスン等を積極的に受講すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

レッスンを受講する際には、充分準備をして臨むこと。

教科書・参考書

適宜資料を配付する。

科目名－クラス名

ピアノ実技Ⅰ④

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	4～	通年	9	評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

ピアノ演奏家Ⅰコースの主科実技科目（実技レッスン）である。演奏家として活躍していく上で必要なレパートリー（協奏曲を含む）を中心に学習する。個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景などについても研究し、4年次までにバロック時代の音楽から、古典派、ロマン派を経て近現代の作品までを学ぶ。なお、4年次前期実技試験課題は協奏曲である。

学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）等について研究し、また和声感、リズム感など演奏表現に必要な様々な要素を磨き、演奏家として必要な表現力を養っていく。

授業展開と内容

第1回	前期オリエンテーション（レッスン計画、目的、勉強方法等）
第2回	個々の課題における改善方法
第3回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解を深める）
第4回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第5回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第6回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第7回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第8回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品に則した演奏スタイルを学ぶ）
第9回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品に則した演奏スタイルを修得する）
第10回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第11回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第12回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第13回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を活かす）
第14回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第15回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）
第16回	後期オリエンテーション（レッスン計画、目的、勉強方法等）
第17回	個々の課題における改善方法
第18回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解を深める）
第19回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第20回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第21回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第22回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第23回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品に則した演奏スタイルを学ぶ）
第24回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品に則した演奏スタイルを修得する）
第25回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第26回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第27回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第28回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を活かす）
第29回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第30回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）

履修上の注意

実技試験課題曲については、その都度発表する。前期1回、後期1回試験を行い、その素点を基に評価する。大学が開催する演奏会・招聘教授による公開講座・レッスン等を積極的に受講すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

レッスンを受講する際には、充分準備をして臨むこと。

教科書・参考書

適宜資料を配付する。

科目名－クラス名

ピアノ実技演習②

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法	定期試験				その他の試験	合計
					筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
実技・実習	2～	通年	3		100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

自らの創作、指揮表現に直結したピアノの技術を高め体得することを目標とする。ピアノ実技演習①に引き続き、作品の内面性を読み取りいかに表現していくかを実習を通して学んでいくことを目的とする。

学修成果

音楽作品の分析や解釈を学びながら、高度なピアノ演奏法を修得する。

授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（レッスン計画、目的、勉強方法等）
第2回	個々の課題における改善方法
第3回	前期課題曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解）
第4回	前期課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り）導入
第5回	前期課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り）発展
第6回	前期課題曲を中心としたレッスン（作品分析、内容理解）導入
第7回	前期課題曲を中心としたレッスン（作品分析、内容理解）発展
第8回	前期課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイル）導入
第9回	前期課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイル）発展
第10回	前期課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点）導入
第11回	前期課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点）発展
第12回	前期課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈）
第13回	前期課題曲を中心としたレッスン（レベルアップした演奏解釈）
第14回	前期課題曲を中心としたレッスン（音楽表現）
第15回	前期課題曲を中心としたレッスン（レベルアップした音楽表現）
第16回	オリエンテーション（レッスン計画、目的、勉強方法等）
第17回	個々の課題における改善方法
第18回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解）
第19回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り）導入
第20回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り）発展
第21回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析、内容理解）導入
第22回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析、内容理解）発展
第23回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイル）導入
第24回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイル）発展
第25回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点）導入
第26回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点）発展
第27回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈）
第28回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（レベルアップした演奏解釈）
第29回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現）
第30回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（レベルアップした音楽表現）

履修上の注意

積極的な姿勢で授業に取り組むこと。

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

毎週のレッスン時に指示されるので、必ず与えられた課題を準備してから臨むこと。

■ 教科書・参考書

必要に応じてその都度、指示を与える。

2022年度(後期・通年)「学生による授業評価アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード：2802 教員名：尾崎 有飛

1) 評価結果に対する所見

「これからのピアノ表現Ⅱ」の自由記述の内容に、新しい技術や知識を学びたいという意見がみられた。この科目の目標の一つとして「楽譜とどのように向き合うか」を考えてゆくことを重視しているため、基礎的な題材を用いることも多いことが要因としてあげられる。また、予習・復習を充分に行っていないと考えている学生も若干みられるが、この科目の授業内容は主科実技の学修と結びついているため、実際には楽曲分析や演奏方法の研究など行っているにもかかわらずこの授業に関連した予習や復習という認識がなく、このような回答結果になっている可能性もある。

2) 要望への対応・改善方策

「これからのピアノ表現」では今後も授業の方針を維持しつつ、新たな題材や内容を取り入れ、授業の流れを柔軟にしてゆく。また同時に、今まで学んだ経験のある事柄に再度触れた際に、その活用範囲を広げて応用することや様々な事柄をリンクして考察を深めることへの興味を持つことを目標に、ディスカッションだけでなくグループワークなども活用し様々な視点を相互に与えられるようにする。

またいずれの科目に対しても、学生個々が必要性や興味をもって予習や復習を行って授業に臨むことが出来るように授業展開を工夫する。

3) 今後の課題

ピアノ演奏家コース必修の「演奏会実習」では、2020年度来の感染症対策の一環で行ってきたマネジメント面の取組が対策緩和によって軽減されたため、公演実習やその事前準備の段階で新たな取り組みも検討している。そのひとつとして、公演に向けたプログラムノートの構成力向上が挙げられる。演奏する楽曲や作曲家に関する研究を行い、演奏だけでなく文字でわかりやすく簡潔に聴衆へ伝える演奏家に必要な表現のスキルとして学び、そして限られた文字数で何を伝えるのか等を考える機会として拡充したい。

また「これからのピアノ表現」は、必修のピアノ音楽コースだけでなく他コースも選択できる科目であるため、相互に刺激となり多様な視点で考えてゆけるようなグループワーク等を取り入れてゆくとともに、幅広い内容に対して偏りなく習熟出来るよう、また学生自身が別の科目へ柔軟に応用して思考出来るような学修を目標に、授業運用をさらに工夫してゆく。

また実技に関することでは、協奏曲の学修の機会を拡充する必要性も感じている。ピアノ演奏家コースは4年次に必ず1曲選択肢ソリストパートを演奏するが、オーケストラパートの演奏と演奏法の学修も併行して行うことがのぞましいため、どのようにカリキュラムとして取り入れてゆくかを今後検討する。

以上